

平成24年度 決算状況		人口 22年国調 17年国調 増減率	面積 137.78 km <sup>2</sup> 63 人	区分 25.3.31 24.3.31 増減率	住民基本台帳人口 8,696 人 9,194 人 -5.4 %	うち日本人 8,620 人 8,606 人	産業構造			都道府県名 46 鹿児島県	団体名 5011 中種子町	市町村類型 地方交付税種地	- 0 2 - 1
							区分	22年国調	17年国調				
歳入の状況 (単位千円・%)													
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	市町村税の状況 (単位千円・%)				指定団体等の指定状況				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	一人当たり平均給料月額(百円)	一人当たり平均給料月額(百円)
地方税	721,206	12.3	721,206	19.7	普通税	721,206	100.0	-	旧新産	×			
地方譲与税	87,460	1.5	87,460	2.4	法定普通税	721,206	100.0	-	旧工特	×			
利子割交付金	1,017	0.0	1,017	0.0	市町村民税	261,465	36.3	-	低開発	×			
配当割交付金	610	0.0	610	0.0	個人均等割	10,097	1.4	-	旧産炭	×			
株式等譲渡所得割交付金	142	0.0	142	0.0	法人均等割	16,614	2.3	-	山振	×			
地方消費税交付金	70,502	1.2	70,502	1.9	法人税割	15,627	2.2	-	過疎	×			
ゴルフ場利用税交付金	3,108	0.1	3,108	0.1	固定資産税	361,423	50.1	-	首都	×			
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	348,918	48.4	-	近畿	×			
自動車取得税交付金	14,013	0.2	14,013	0.4	軽自動車税	30,013	4.2	-	中部	×			
軽油引取税交付金	-	-	-	-	市町村たばこ税	68,305	9.5	-	財政健全化等	×			
地方特例交付金	1,206	0.0	1,206	0.0	鉱産税	-	-	-	指数表選定	×			
地方交付税	2,959,940	50.6	2,703,243	74.0	特別土地保有税	-	-	-	財源超過	×			
普通交付税	2,703,243	46.3	2,703,243	74.0	法定外普通税	-	-	-					
特別交付税	255,662	4.4	-	-	目的税	-	-	-					
震災復興特別交付税	1,035	0.0	-	-	法定目的税	-	-	-					
(一般財源計)	3,859,204	66.0	3,602,507	98.6	入湯税	-	-	-					
交通安全対策特別交付金	1,717	0.0	1,717	0.0	事業所税	-	-	-					
分担金・負担金	27,517	0.5	-	-	都市計画税	-	-	-					
使用料	102,114	1.7	4,162	0.1	水利地益税等	-	-	-					
手数料	13,528	0.2	-	-	法定外目的税	-	-	-					
国庫支出金	278,983	4.8	-	-	旧法による税	-	-	-					
国庫提供交付金	-	-	-	-	合計	721,206	100.0	-					
(特別区財政調整交付金)	-	-	-	-									
都道府県支出金	449,296	7.7	-	-									
財産収入	47,473	0.8	43,667	1.2									
寄附金	6,885	0.1	-	-									
繰入金	30,379	0.5	-	-									
繰越金	85,620	1.5	-	-									
繰上収入	89,924	1.5	82	0.0									
地方債	851,800	14.6	-	-									
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-									
うち臨時財政対策債	200,600	3.4	-	-									
歳入合計	5,844,440	100.0	3,652,135	100.0									
性質別歳出の状況 (単位千円・%)													
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率	区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち 普通建設事業費	(A)の 充当一般財源等	区分	平成24年度(千円)	平成23年度(千円)
人件費	1,232,909	21.6	1,160,823	1,153,981	30.0	議会費	93,608	1.6	-	93,608	基準財政収入額	916,579	743,037
うち職員給料	751,291	13.1	692,868	-	-	総務費	894,408	15.6	48,059	825,424	基準財政需要額	2,703,243	3,483,604
扶助費	512,487	9.0	180,008	175,383	4.6	民生費	1,320,133	23.1	146,876	706,375	標準税収入額等	916,579	936,989
公債費	910,070	15.9	869,042	869,042	22.6	衛生費	494,050	8.6	11,254	432,213	標準財政規模	3,820,432	3,885,780
元金	811,953	14.2	779,460	779,460	20.2	労働費	3,168	0.1	-	2	財政力指数	0.21	0.21
元利子	98,011	1.7	89,476	89,476	2.3	農林水産業費	620,277	10.8	292,076	314,999	実質収支比率(%)	1.7	1.9
一時借入金	106	0.0	106	106	0.0	商工費	61,480	1.1	10,951	37,595	公債費負担比率(%)	20.8	20.7
(義務的経費計)	2,655,466	46.4	2,209,873	2,198,406	57.1	土木費	432,024	7.6	240,647	187,969	健全化判断比率	-	-
物件費	570,470	10.0	426,813	362,223	9.4	消防費	282,560	4.9	55,999	227,270	連結実質赤字比率(%)	-	-
維持補修費	34,676	0.6	29,083	25,043	0.7	教育費	597,063	10.4	203,837	400,879	実質公債費比率(%)	10.0	11.5
補助費等	686,318	12.0	561,255	492,857	12.8	災害復旧費	9,400	0.2	-	2,833	将来負担比率(%)	35.2	42.4
うち一部事務組合負担金	405,200	7.1	394,300	367,817	9.5	公債費	910,070	15.9	-	869,042	積立金	541,654	497,958
繰出金	500,595	8.8	426,604	380,175	9.9	諸支出費	-	-	-	-	財調減債特定目的	1,509,727	1,285,064
積立金	226,573	4.0	223,187	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-	現在高	1,066,609	1,091,788
投資・出資金・貸付金	25,044	0.4	150	-	-	歳出合計	5,718,241	100.0	1,009,699	4,098,229	地方債現在高	6,740,010	6,700,163
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-						(債務負担行為額)	-	-
投資的経費	1,019,099	17.8	221,264	221,264	17.8	経常経費充当一般財源等計	3,458,704 千円			23,064	物件等購入保証・補償	-	-
うち人件費	10,636	0.2	10,507	10,507	0.2	公営事業等への繰上	89.8 %			7,308	その他	133,384	79,090
普通建設事業費	1,009,699	17.7	218,431	218,431	17.7	経常収支比率	94.7 %			1,836	収益事業収入	-	-
うち補助	270,826	4.7	18,457	18,457	4.7	(減収補填債(特例分)及び臨時財政対策債除く)				3,059	土地開発基金現在高	254,901	254,762
うち単独	648,915	11.3	167,616	167,616	11.3	歳入一般財源等	4,177,985 千円			92	徴収率(%)	98.1 91.5	98.0 91.6
災害復旧事業費	9,400	0.2	2,833	2,833	0.2	国民健康保険	101,130			113	現計	98.7 95.8	98.6 96.0
失業対策事業費	-	-	-	-	-	その他	336,876			278	純固定資産税	97.3 87.0	97.1 87.1
歳出合計	5,718,241	100.0	4,098,229	4,177,985 千円									

(注) 1. 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。  
2. 東京都特別区における基準財政収入額及び基準財政需要額は、特別区財政調整交付金の算出に要した値であり、財政力指数は、前記の基準財政需要額及び基準財政収入額により算出した。  
3. 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。  
4. 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。